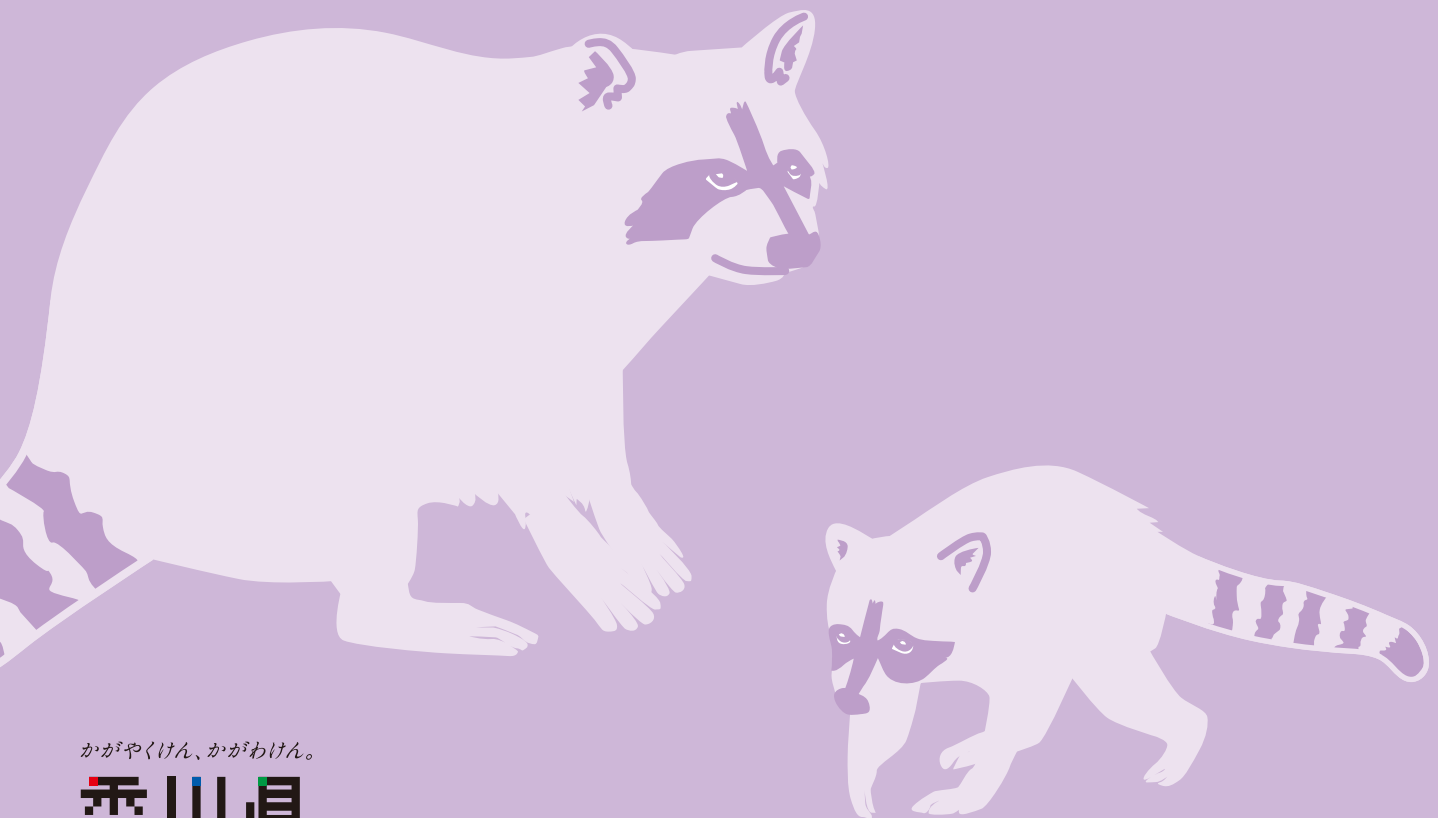




アライグマ捕獲技術 プログラム

Ver.1



かがやくけん、かがわけん。

香川県

プログラムの目的

- 本プログラムは、はこわなによる捕獲技術の向上を図り、外来生物であるアライグマを効果的に地域から排除することを目的に作成しました。
- 農作物などへの被害対策と併せて捕獲に取り組むことで、地域の貴重な自然や生活環境を守りましょう。

注意事項

- アライグマの捕獲には許可などが必要です。
このプログラムは、法令に基づいた捕獲許可などを受けた方を対象に作成しています。法令やマナーを守って、安全に捕獲を行ってください。
- 外来生物法に基づく防除の確認を受けている自治体では、自治体が開催する防除従事者講習会を受講することで、狩猟免許がなくてもアライグマの捕獲を行なうことができます。
詳細は、お住まいの自治体にお問い合わせください。

目次

■プログラムの目的・注意事項	1p
■捕獲の手順・捕獲のマナーと安全管理	2p
■プログラムの実践	
Ⅰ. はこわな選定のポイント	3～4p
Ⅱ. 捕獲に役立つアライグマの特性	5p
コラム① アライグマの繁殖サイクルと効果的な捕獲時期	6p
Ⅲ. はこわなによる捕獲の手順	7～15p
コラム② ケガや感染症の予防	14p
コラム③ アライグマの性別判定法	16p
■資料	
Ⅰ. アライグマのフィールドサイン（痕跡）	17～20p
Ⅱ. アライグマの捕獲地点	21～22p
Ⅲ. 炭酸ガスを用いた殺処分方法	23～24p
Ⅳ. アライグマの見分け方	25p

捕獲の手順

1 場所を選ぶ



2 わなを設置する



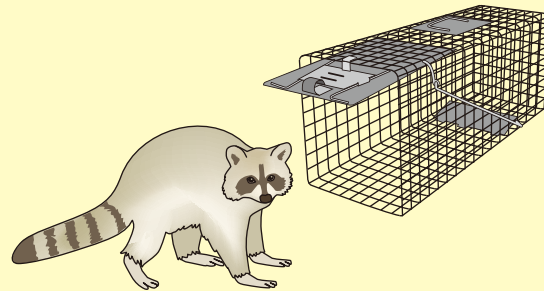
3 捕獲を開始する



4 捕獲したアライグマを殺処分する



5 継続して捕獲、または移設・中断する



捕獲のマナーと安全管理

●捕獲時の対応は迅速に！

捕獲したアライグマを長時間放置すると、事故や逃亡のリスクが高くなるので、安全かつ速やかに殺処分を行いましょ。殺処分に際し、わなを移動させるときは、扉が開かないように「かんぬき」や針金などで、扉を固定しましょ。

●エサの管理に注意！

過剰にエサを置いたり、腐敗したエサを放置していると、悪臭や害虫の発生などによるトラブルの原因となります。

●仕掛けのセットは最短で！

捕獲待機状態のまま長時間放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。毎日の見回りができないときは、わなを撤収するか、扉が閉まらないようにロックを掛けておきましょう。

●近所への周知と注意喚起を！

わながあることを知らずに人が近づくと、誤ってケガをするおそれがあります。また、ネコなどを放し飼いにしている場合、錯誤捕獲が原因でトラブルになることがあります。法律で定められた標識のほかにも、注意喚起用の看板を設置しましょ。

I . はこわな選定のポイント

力が強く、手先の器用なアライグマを捕獲するためには、わなの選び方も重要です。適切な仕様のわなを選んで、確実かつ安全にアライグマを捕獲しましょう。

仕掛けの種類

踏み板式とエサ吊り下げ式が主流です。捕獲効率は変わらないので、それぞれの特徴を知って、使いやすい方を選びましょう。

踏み板式



踏み板の感度を調節することで、小動物の錯誤捕獲を防止できます。

エサ吊り下げ式



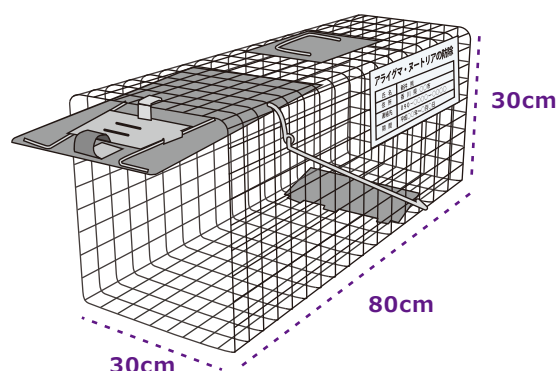
地面が湿った場所でもエサが濡れないため、水辺での捕獲に適しています。

わなの大きさ

国内でよく使用されているはこわなは、幅30cm×高さ30cm×奥行き80cm程度。重さは、軽いものでも4kgくらいあります。

持ち運びや保管場所の都合も考えて、使いやすい大きさのわなを選びましょう。折りたたみ式のものもあります。

わなには、必ず標識を付けましょう。



ストッパー（開放防止機構）

力が強く、手先の器用なアライグマを捕獲するためには、ストッパーが不可欠です。

捕獲完了後、中から扉を開けられない構造のわなを使いましょう。

※ストッパーには、様々なタイプのものがあります。



- ① 扉が閉まり、ストッパーが下りると
- ② 扉が開かなくなる仕組みです

わなの強度

逃亡防止のため、できるだけ頑丈な構造のわなを使いましょう。

特に、折りたたみ式のわなや、扉などの可動部、歪み大きな箇所は、必要に応じて補強することも大切です。



網を破られて逃げられたわな

網目の大きさ

2 cm 程度の格子だと、アライグマの手が入ります。

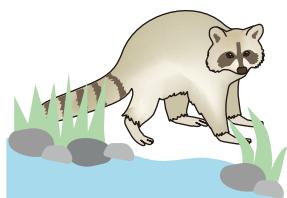
わなの外からのエサ盗りを防止するためには、細かい目合いのメッシュを貼るのが効果的です。メッシュを貼る際は、わなの動作を邪魔しないように注意しましょう。



Ⅱ. 捕獲に役立つアライグマの特性

アライグマの生態や行動の特性を知ることによって、捕獲効率を高めることができます。

特性 1 水辺を好む



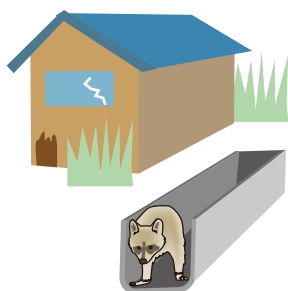
アライグマにとって、水辺は水飲み場としてだけでなく、繁殖やエサになる動物の探索にも不可欠な場所です。河川や用排水路は、移動ルートとしても重要で、三面張りの水路も積極的に利用します。

【場所の検討】

よく利用する環境は、捕獲に適した環境でもあります。

被害地への侵入ルートを見つけて、足跡などの新しい痕跡のあるところにわなを設置しましょう。

特性 2 身をさらすことを嫌う



アライグマは、身をさらすことを嫌う動物です。平野部や都市部の林地や側溝、地下に張り巡らされた暗きよ、空き家などは、身を隠しながら移動や生活をするための重要な場所です。

特性 3 手のひらが敏感



毛のない柔らかな手のひらは、アライグマの重要な感覚器です。普段は、この感覚器を活用して、手探りでエサを探索しています

【エサのまき方の工夫】

わなの周辺の広い範囲にエサをまくことで、わなへの誘引効果が高まります。

特性 4 授乳期間は約 50 日間



アライグマは 1 年に 1 度、4～5 月に出産します。子供は、生後 50 日程度で親と一緒に野外に出て行動するようになります。

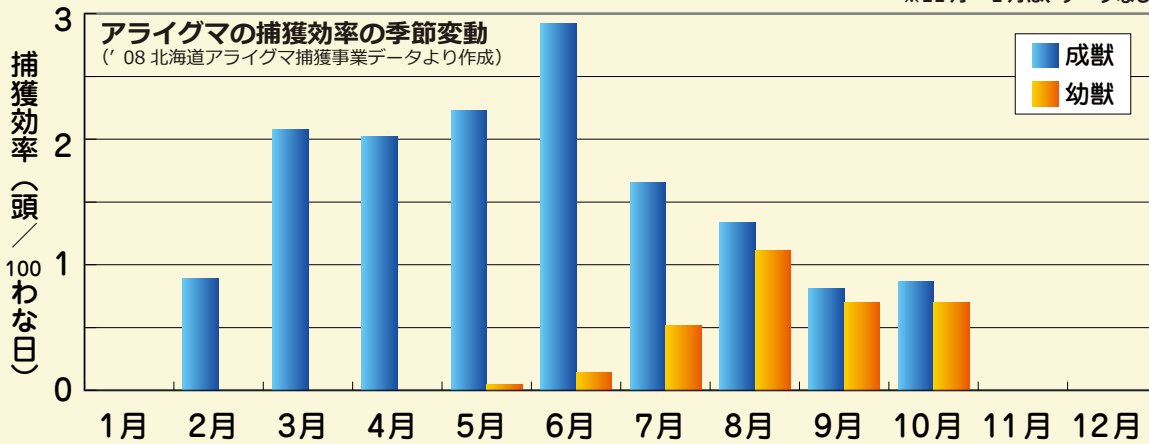
【捕獲時期の検討】

授乳期間中にメスの成獣を捕獲することで、生息密度を大幅に下げることが期待できます。

コラム①

アライグマの繁殖サイクルと効果的な捕獲時期

※11月～1月は、データなし



繁殖生態

繁殖のため、納屋や畜舎、家の屋根裏などに棲みつきます。

交尾期

妊娠期間

出産期

授乳期間

離乳期

幼獣が親について外へ出るようになります。野外へ出るアライグマの数が最も多くなる時期です。

冬眠

捕獲効率

捕獲効率【低】

アライグマが活動的になり、捕獲効率も一気に上昇します。

妊娠後期・出産後のメスが活発に動きはじめます。

捕獲効率【高】

捕獲効率【中】

野外の食べ物が豊富になるため、捕獲効率は低下します。

捕獲効率【低】

アライグマの活動性が下がり、捕獲効率はさらに低下します。

対策

最適捕獲時期

捕獲に最適な時期です。この時期の捕獲は密度を減らすだけでなく、農作物被害の軽減にも効果的です。

農作物などへの被害が深刻化する時期です。電気柵の設置など、被害対策に力を入れましょう。

繁殖場所やエサを求めて、建物に侵入する時期です。戸締りをして、定期的な点検しましょう。

Ⅲ. はこわなによる捕獲の手順

1. 場所を選ぶ

- アライグマが好んで利用する場所を見つけましょう。



① 被害・目撃情報を集める

- 農作物被害や棲みつきなどの生活被害が発生している場所を見つけましょう。
- 最近、アライグマが目撃された場所を見つけましょう。

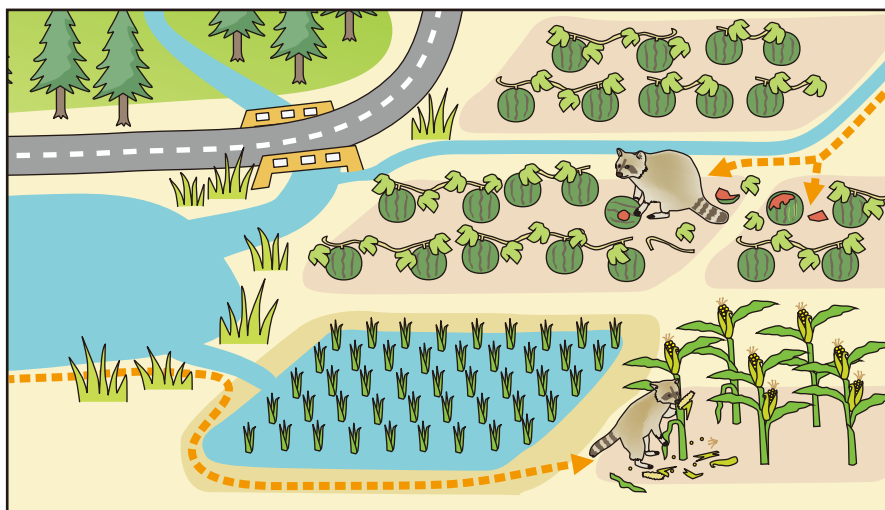
※ 爪あとや糞、食痕などの特徴は、資料 P.18 ～ P.19 を参照。
※ アライグマの見た目の特徴は、資料 P.25 を参照。

② 移動ルートを見つける

被害地や目撃地点の周辺で、

- できるだけ身を隠して移動できるルートを見つけましょう。
- ため池や水路など、アライグマが好む水辺環境を探しましょう。

被害の発生場所と侵入方向の関係



多くの場合、侵入路に近い場所から被害が発生します。

③ 移動ルート上で、わなの設置に適した場所を探す

【設置に適した場所の条件】

以下の項目をより多く満たす場所ほど適しています。

- 新しい足跡がたくさんある
- 複数の水路が交差している

→ 主要な移動ルートである可能性が高く、アライグマがわなに出合う確率が高くなります。

※ アライグマの足跡や歩き方の特徴は、資料 P.17 ~ P.18 を参照。

■ 身を隠してエサを食べられる森や林の中

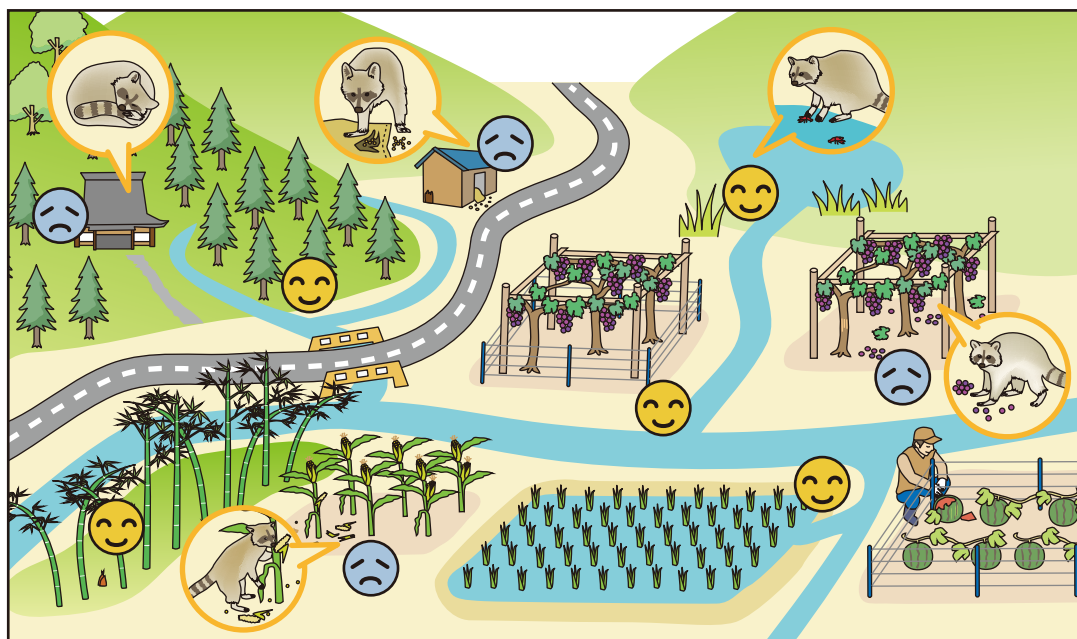
→ アライグマの警戒心が下がるため、捕まりやすくなります。

■ 周辺にアライグマが好む食べ物が無い

→ わなの中のエサがより魅力的に見える環境です。

【わなの設置場所の選び方】

捕まえやすい環境 😊 捕まえにくい環境 ☹️



被害が発生している農地や不定期に訪れるねぐらでは捕獲効率が低くなります。被害農地は電気柵で防護し、移動ルート上で捕獲しましょう。

2. わなを設置する

- アライグマが入りやすいような向きや位置で設置しましょう。



① わな設置前の作業

- けもの道をふさがないように、わなの位置を決める。

→ 環境が大きく変わると、移動ルートを変えてしまうことがあります。

- わなを置く場所は整地して、平らにする。

→ 不安定なわなや、傾いたわなは警戒します。

- 大事なものは、わなの近くに置かない。

→ アライグマが捕まると、わなの下や周辺が鋭い爪や糞尿、血液などで激しく汚損します。



② わな設置後の作業

- わなの中や、わなの前の雑草は取り除く。

→ 見通しの悪いわなは警戒します。

→ 扉付近やわなの下の雑草は、わなの正常な作動を妨害することがあります。

- 杭で固定したり、重いブロックなどを乗せて、わなの転倒を防止する。

→ わなが転倒すると、捕獲個体が逃げることがあります。



転倒して逃げられたわな



杭で固定した例



重いブロックを乗せた例

③ エサをまく

■ わなの周りにエサをまく。

→ わなに気づかせるためのエサです。
少量で良いので、できるだけ広い範囲にまきましょう。

■ わなの入り口にエサを置く。

→ わなの中へと誘導するためのエサです。
エサの味を覚えさせて、奥へと誘い込みましょう。

■ わなの奥にエサを置く。

→ 捕獲するためのエサです。
小動物に持ち逃げされないよう、杭などで固定したり、大きめのエサを使用するのも効果的です。



エサのパンを杭で刺して固定した例



徐々にわなの中へと誘導するようにエサを配置しましょう。

草などでわなに覆いを掛けることで、カラスなどの鳥類の錯誤捕獲や捕獲個体の衰弱を防止することができます。

【捕獲実績の高いエサ】

エサの種類によらず、常に鮮度を保つことが重要です。
古くなったり、腐りはじめたエサは、必ず交換しましょう。

まきエサ	ドッグフードなど ----- アライグマが気づけばいいので、安いエサで十分！
わな内のエサ	インスタントラーメン、パン（メロンパンや揚げパンなど） ドーナッツ、お菓子 配合飼料（乾燥トウモロコシ）、落花生（ピーナッツ） 肉類（から揚げなど） ----- 腐りやすく、混獲が多いが、 魚類（にぼし、スルメなど） ----- ここぞという場面で効果的！ 果物類（リンゴ、ブドウなど） ----- ネコの混獲防止に有効

3. 捕獲を開始する



- 毎日見回りをし、常に捕獲できる状態を保ちましょう。

① エサの状態を確認する

■ エサが食べられていないか確認する。

→ まきエサやわなの中のエサが減っている場合は、アライグマが寄りついている可能性があります。

■ エサの鮮度を確認する。

→ エサが古くなると捕獲効率は低下します。
こまめにエサを交換して、アライグマが来たときにわなに新鮮なエサが入っているように心がけましょう。



エサを固定しておくことで、ネズミなどの小動物による食痕を区別できます。エサが完全になくなっていれば、中型動物が来たと判定できます。



ネズミの食痕

② わな周辺の痕跡を確認する

■ 新しい足跡などがいないか確認する。

→ どんな動物がわなに寄りついているか、アライグマが近くまで来ていないか、常に観察する習慣を身につけましょう。



③ わなの状態を確認する

■ わなが正常に作動するか確認する。

→ 仕掛けがスムーズに動くか、見回りのたびに確認しましょう。
 わなの感度は適切か、扉が途中で引っかからないか、実際にわなを稼働させて確認することが大切です。

■ わなが破損していないか確認する。

→ 動物を捕獲すると、わなの連結箇所や溶接部分が壊れることがあります。捕まえたアライグマを逃がさないように、わなは常に整備しておきましょう。

【わなの破損例と予防法】

わなの破損例



後ろ扉を内側に引き開けられた例

予防例



後ろ扉の可動部を、針金や結束バンドなどで補強します。



わなの内側からの衝突で
 ストッパーが外れた例



輪にしたワイヤーなどで開放を
 防止します。

4. 捕獲したアライグマを殺処分する

- 捕まえた個体を逃がさず、安全かつ速やかに処置しましょう。



① 扉を固定する

人が近づくとアライグマは、必死で逃げようとします。捕まっていることを確認したら、扉が開かないように、逃走防止の措置を講じましょう。



「かんぬき」を挿すと扉は開かなくなります

② 覆いをかける

わなの外が見えなくなるとアライグマは暴れなくなります。事故防止のため、処置を待つ間や、処分場まで移動する時には、わなに覆いをかけましょう。



ブルーシートなどで包むと、安全に持ち運びができます

③ 速やかに殺処分する

捕獲個体を長時間放置すると、事故や逃亡のリスクが高まります。見回りは午前中に行い、捕獲を確認したら、速やかに殺処分しましょう。

※ 香川県内の市町では、防除実施計画（外来生物法第18条第1項及び2項）に基づいて、炭酸ガスを用いた殺処分を行っています。

具体的な作業手順については、P.23～P.24を参照。

※ 殺処分後の個体の処理については、お住まいの市町にお問い合わせの上、法令に従って適切に処理してください。

ケガや感染症の予防

アライグマに限らず、野生動物は様々な感染症やウイルスを持っています。捕獲作業の際には、次のことに気をつけましょう。

ケガの予防

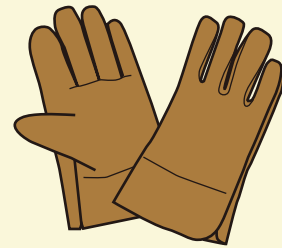
① 捕獲個体への不用意な接近の禁止

アライグマは、力が強く手先も器用なため、不用意に近づくのは危険です。特に、わなの隙間から伸びてくる手には注意が必要です。



② 皮手袋の着用

アライグマの鋭い爪や牙、わなの金属部分でケガをしないように、作業中は、皮手袋などを着用するようにしましょう。



感染症対策

③ 作業中の飲食、喫煙の禁止

ウイルスや病原菌の多くは、動物の唾液や糞尿、血液などが人の口に入ることによって感染します。作業中は物を食べたり、タバコを吸ったりしないように気をつけましょう。感染症予防には、マスクの着用も効果的です。



④ 手洗いやうがいの励行

作業が終わったら、石鹼を使って手を洗い、うがいをするようにしましょう。また、捕獲作業に使用した作業着は、洗剤を使って洗濯してください。

⑤ 体調に異変を感じたら…

作業中にケガをしたり、体調不良を感じたら、すぐに病院で診察を受けてください。診察を受ける際は、医師に作業の内容を正確に伝えるようにしてください。

5. 捕獲を継続、または移設・中断する

- 効率的に捕獲を続けましょう。



① 次のような場合は、その場で捕獲を継続する

■ わな周辺に、新しい痕跡がある場合

→ アライグマが好んで利用する環境では、繰り返し捕獲できます。よく捕獲される場所では、定期的に足跡などを確認しましょう。



■ 捕獲した個体が、子育て中のメスや幼獣であった場合

→ アライグマは母子で行動するので、子育て中のメスや幼獣が捕獲された場所では、連続して捕獲される可能性があります。



体重が 3kg 未満の個体は、幼獣です。
アライグマは 1 年に 1 回、平均で 3～5 頭の子供を出産します。

※ オス・メスの判定、授乳状況の確認は、P.16 を参照。

② 次のような場合は、わなを移設したり、捕獲を中断する

■ 捕獲後、しばらくしても新しい痕跡が残らない場合

【他の場所に新しい痕跡がある場合】

新しい痕跡があった場所に、わなを移設しましょう。

【他の場所でも新しい痕跡が見つからない場合】

一度、わなを撤去して、周囲に新しい痕跡が見つかるまで、捕獲を中断しましょう。

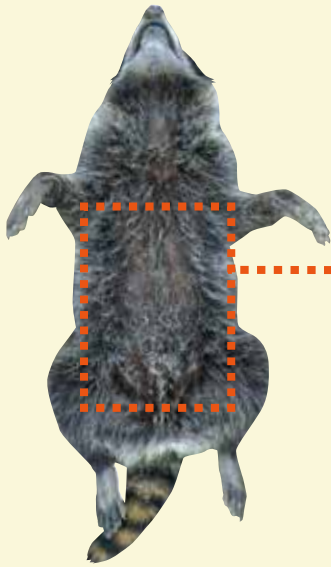
アライグマの性別判定法

腹部をチェック

仰向けに寝かせて、腹部を見ます



乳房が発達していて、乳汁の分泌が見られれば、子育て中の母親である可能性が大。



1
乳房はありますか？



はい

メス

いいえ

いんけいこつ

陰茎骨をチェック

仰向けに寝かせたまま、肛門より少し上の部分を指で両側からつまみます。



2
縦に長い骨（いんけいこつ陰茎骨）がつまめますか？

いいえ

オス

はい



いんけいこつ陰茎骨は、右の写真のような形状をしています。太いしっかりとした骨なので、あれば、すぐにわかります。



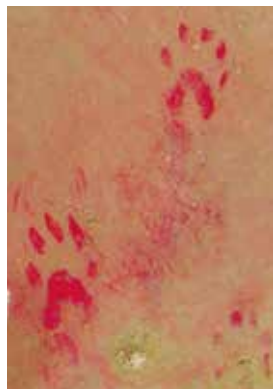
※ 死体に触る際は、感染防止のため、必ず使い捨てのゴム手袋などを着用してください。

I. アライグマのフィールドサイン（痕跡）

足跡



5本指で、人間の手形に似た足跡が残ります。



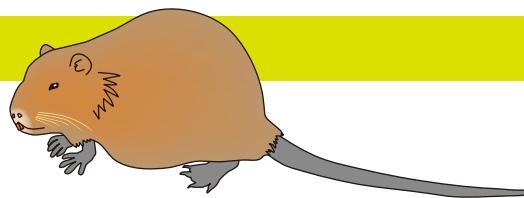
硬い地面には、指先と足の裏の跡だけが残ります。



よく似た足跡の動物

ヌートリア

アライグマと同じ特定外来生物です。
香川県では、小豆島など一部の地域で生息が確認されています。



前足は、通常4本指の跡しか残りません。後足の跡は5本指で、水かきの跡が残ります。



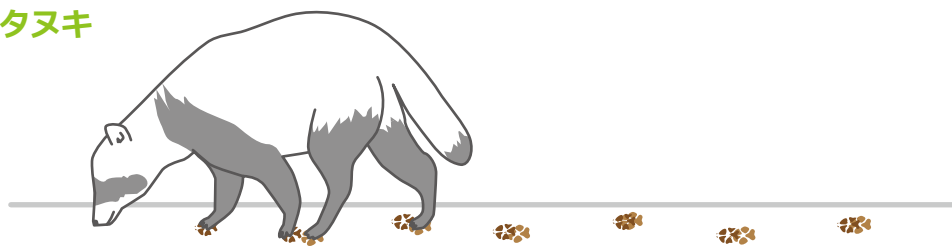
歩き方

アライグマ



大きさの異なる足跡が 30 ~ 40cm 間隔で並行して続きます。前足の横に、反対側の後足が着地する独特な歩き方をします。

タヌキ



タヌキなど他の中型哺乳類は、前足の跡を後足が追いかけて踏む歩き方をします。

爪あと



家の柱などに残る 5 本の長いひっかき傷が特徴ですが、爪あとだけで時期や獣種を特定するのは困難です。

糞



糞の色や形、太さなどは、食べたものによっても異なります。

橋の下や屋根裏では、ため糞をすることもあります。

被害の様子

アライグマによる食痕を判別しやすい農作物



メロン



スイカ

メロンやスイカなど、球形の果物の場合、直径 5cm くらいの穴を開けて中をくり抜いて食べるのが特徴です。



トウモロコシ



トウモロコシの場合、皮をむいてきれいに食べた食痕がたくさん散乱します。皮がちぎれたり、芯が折れていないのが特徴です。

アライグマによる トウモロコシ食害の様子

2 本足で立ち上がり、手と口を使って器用に皮をむいて食べます。



その他、被害に遭いやすい農作物など



ブドウ



樹上から宙吊りになって食べます。1回あたりの食害量が多く、地上に吐き出した皮が散乱するのが特徴です。ハクビシンもよく似た食痕を残しますが、樹上に袋が引き上げられていれば、アライグマの可能性大です。



イチゴ



エサが少ない春先に収穫時期を迎えるイチゴは、さまざまな野生動物に狙われる作物の一つです。電気柵でしっかりと防護しましょう。



飼料



穀類

家畜の飼料や備蓄米、豆類などにも被害が出ます。棲みつきを防ぐためにも、納屋や畜舎は、しっかりと戸締りをしましょう。

Ⅱ. アライグマの捕獲地点

水辺

水辺は、アライグマにとって非常に重要な生活場所です。エサを探したり、水を飲んだりするだけでなく、繁殖や移動路としても頻繁に利用するため、捕獲の成功率も高くなります。ただし、水辺にわなを設置する際には、わなの水没や流失に気をつけましょう。



ため池や湖沼



自然河川や湿地



水田



側溝や排水路



護岸された河川や用水路 ①



護岸された河川や用水路 ②

林の中

ひらけた環境に身をさらすことを嫌うアライグマにとって、防風林や竹林は、身を隠して移動したり、エサを食べたりするのに適した環境です。けもの道を探してわなを設置すると効果的です。



防風林



竹林

人家や倉庫、畜舎、納屋など

休憩や繁殖、エサ場として、好んで利用される環境です。感染症や家財の汚損を避けるため、わなはできるだけ建物の外に設置することをお勧めします。



畜舎や家屋の周辺



納屋や重機小屋

被害農地への侵入路

被害農地はアライグマが確実に現れる場所ですが、農作物が簡単に食べられる状態にあると、捕獲効率は下がります。農地は電気柵でしっかりと囲い、周辺の水路などの侵入路で捕獲をしましょう。



Ⅲ.炭酸ガスを用いた殺処分方法

【処置手順】

- ① ボンベと調整器、処置ボックスが繋がっていることを確認します。
- ② 捕獲個体を興奮させないように、わなを静かに処置ボックスに入れてフタを閉めます。



圧縮された炭酸ガスはとても冷たいので、ガスが直接処置個体に当たると激しく暴れることがあります。はこわなを入れる際には、ガスの注入口側に扉が来るように、わなの向きに気をつけましょう。

- ③ ガスボンベの元栓 (A) を全開にします (左回し)。
- ④ 圧力調整弁 (B) をゆっくりと閉めて行き (右回し)、ガス圧計 (C) が、「0.2MPs (メガパスカル)」になるように調整します。
- ⑤ 流量調整弁 (D) をゆっくりと開けて行き (左回し)、15 ~ 20 秒ほどかけてフローメーター (E) 内の鉄球の中心が、規定流量 (5 分間で処置ボックスが満タンになる流量) に達するように調整します。

※ 急に流量を上げると、処置個体が暴れることがあります。



元栓を全開にする



圧力調節弁をゆっくり閉めていく



ガス圧計を 0.2MPs に設定する



流量調節弁をゆっくり開けていく



鉄球の中心を規定流量の目盛りに合わせる
写真は 17 l / min の例

- ⑥ 10 分後、元栓 (A) を閉め (右回し)、フローメーター (E) 内の鉄球が完全に下に落ちるのを確認します。
- ⑦ 圧力調整弁 (B) を開放し (左回し)、流量調整弁 (D) を完全に閉めます (右回し)。



元栓を閉める



鉄球が完全に下に落ちたことを確認する



初期状態に戻す

- ⑧ ガスを止めた後、そのまま最低 1 分間、放置します。
- ⑨ 処置個体の呼吸やけいれんが完全に停止していることを確認してから、わなを取り出します。
この時、まだ個体に生命反応が見られた場合は、最初から手順をやり直します。
- ⑩ 心拍停止、瞳孔散大、舌の微けいれんの停止の 3 点で処置個体の死亡を確認します。



聴診器で心拍が停止したことを確認する



瞳孔が縮動しないことを確認する



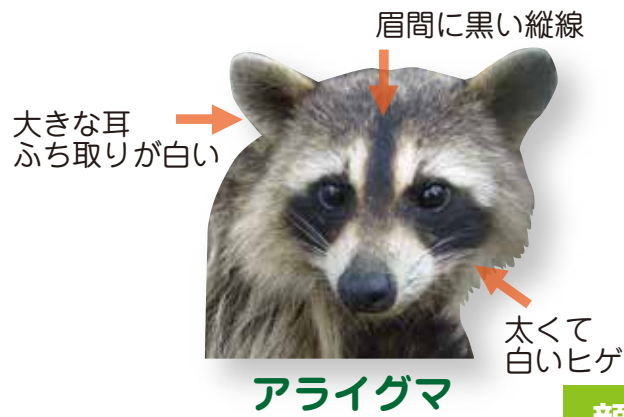
舌のけいれんが止まったことを確認する

- ⑪ すべての作業が終わったら、次の個体の処置に入る前に、処置ボックスを逆さにして、中の残留ガスを完全に排出します。

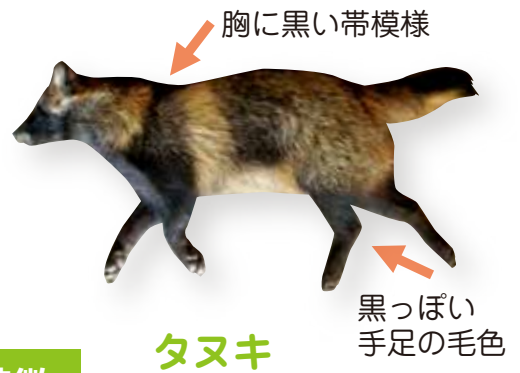
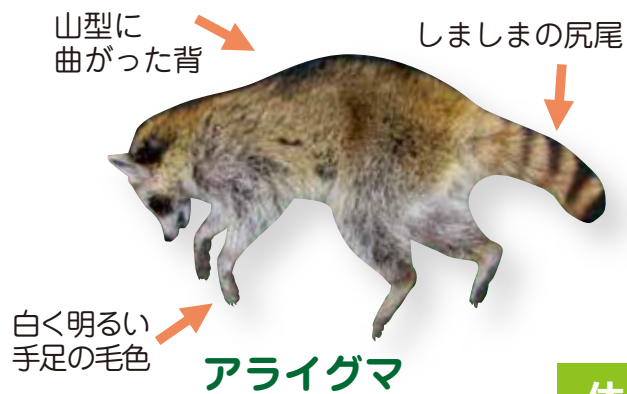


処置ボックス内に炭酸ガスが残留した状態でアライグマを入れると、処置個体が鼻粘膜などに強い痛みを感じて暴れることがあります。

IV. アライグマの見分け方



顔の特徴



体の特徴



- 監修・写真提供
阿部 豪（株式会社 野生鳥獣対策連携センター）

アライグマ捕獲技術プログラム Ver.1

- 平成 28 年 2 月 初版
- 編集・発行 香川県環境森林部みどり保全課
- 制作／株式会社 野生鳥獣対策連携センター（兵庫県丹波市青垣町佐治 8-2）
- イラスト／米澤 里美

